



彩雲と三重塔

青葉の笛だより

第37号

令和3年7月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

私は昭和30年8月に、山と川と田んぼと数十件の家しかない、福岡県の田舎のお寺で生まれました。当時のお寺には、祖母をはじめ明治十年代後半から二十年代生まれのお婆ちゃん、沢山住み込みであられて、境内のお掃除や食事作りから私たち家族の身の回りの世話などにご奉仕しておられ、私は中学生になる頃まで、そのお婆ちゃんたちに囲まれて育ちました。

このコロナ禍で自分を振り返る時間が多くなり、昨年夏に高齢者と呼ばれる年になったからでしょうか、不思議とそのお婆ちゃんたちのことが思い出され、殊に幼少期にあった出来事への感謝の思いが沸々と湧いてきて、今はお婆ちゃんたちが菩薩のように思えるのです。

ご存じと思いますが、菩薩は修行を重ねて仏の世界、彼岸に渡れるまでの悟りを得ていますが、私たちの苦を抜き、樂を与えるために、敢えてこの世に残って修行を続けておられます。その私たちを救い取り、利益を与えて悟りに導くことを「摂取化益」、略して「摂化」と言い、その方法として実践されている

るのが、よくお聞きになっていると思いますが、布施、愛語、利行、同時の四つで、四摂事や四摂法とも呼ばれています。

布施は、物質的な施しの財施、仏法を施す法施、不安を除く無畏施を与えて正道に導くことで、見返りを求めることはありません。

愛語は、愛情と思いやりのある言葉をもって慰め、励まし、力づけて教え導くことで、ここにも見返りを求める心はありません。

利行は、他を利する行動によって私たちに現在と未来の二世に亘る利益を与えることで、その行いに見返りを求めることはありません。

同時は、高い所から見下さず、行いを共にしながら悟りに導くことです。もちろんここにも見返りを求める心はありません。

これらの菩薩行を知り、小学一年生を頭に三人の孫を持つ身となり、一つ屋根の下でくらししていると、当時のお婆ちゃんたちが私に与えてくれた言葉やしてくれた行いの一つ一つが、まさに見返りを求めない菩薩行に思えるのです。

お婆ちゃんたちのほとんどが小学校しか行っていない人たちで、貧しい育ちでしたし財産もないと言っていました。優しさは心の豊かさです。何も求めず、何も持たない方が、心の豊かさをもたらすのかもしれないですね。

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

合掌

十三佛に見守られて(14)

— 阿弥陀如来

摩耶山天上寺貫主 伊藤 淨厳

阿弥陀如来は、別名としてサンスクリットのアミターユスから無量寿（如来）、アミターバから無量光（如来）とも称されています。また阿弥陀仏とも言われ、西方極楽浄土の教主であります。無量寿とは無限の寿命をもつもの、無量光とは無量の光明を放つものの意です。

『無量寿経』によれば、むかし世自在王如来の時世に法蔵比丘（菩薩）が五劫（永遠の時間）のあいだ思惟して、四十八の大願を發し、その後さらに永劫（無限の時間）のあいだ修行の功徳を積んで、それらの諸願を悉く成満し、ついに正覚を成じて仏になったとあります。

この四十八願は、阿弥陀如来が仏になる以前、即ち法蔵菩薩であった時に、一切衆生を救済するために立てられた四十八種の誓願で、浄土系の宗旨では殊に重視し、浄土系他力信仰の根柢となっています。

この四十八願は、すべて左のごとき表現形式で説かれています。第一願を例にあげてみましょう。

「たとひ我れ仏を得たらんに、国に地獄・餓鬼・畜生あらば、正覚を取らじ。」

この願は「無三惡趣の願」といわれ、次のような意味であります。

（たとえ、わたしが悟りを得て仏と

なることがあり得たとしても、わたしの仏国土にあつて、地獄に墮ちる者や、飢え・渴き・苦しみに悩まされている者や、愚かで貪欲・淫欲だけで互いに害し合い苦しみ多く楽しみのない者がいる間は、わたしは正しい悟りを得ようとは思いません。）」

Ⅱ（三惡道に墮ちて、呻吟（うめき苦しむこと）している衆生を見捨てて、自分だけが無上の悟りを得て、それを享受するわけには参りません。）

このような発願が延々と四十八も述べられているのです。まことに、我ら凡人にとつては勿体なくも有難い極みであります。

ところで、日本の浄土系の宗旨ではこの阿弥陀仏（法蔵菩薩）の四十八願の中では、とりわけ第十八番目の願が特別重要視されています。そのため、この願を王本願といいます。また至心信樂の願、念仏往生の願ともいいます。この第十八願とは、左のごとくであります。

「たとひ我れ仏を得たらんに、十方の衆生、至心信樂して、わが国（極楽浄土）に生ぜんと欲ひて、乃至十念せん。もし生ぜずんば、正覚を取らじ。ただ五逆と誹謗

正法とをば除く。」

これは左のごとき意味です。

（たとえ、わたしが悟りを得て仏となることがあり得たとしても、十方の衆生がわたしの衆生済度の真心を信じて、わたしの建立する仏国土に生じたいと、十たび信仰の心をおこして仏を念じてても極楽に生じなければ、わたしは正しい悟りを得ようなどとは到底思いません。ただし、五逆と誹謗正法とは除きます。）」

五逆—五種の重罪。①母を殺すこと、②父を殺すこと、③聖者（阿羅漢）を殺すこと、④仏の身体を傷つけて出血させること、⑤教団の和合を破壊し分裂させること。

誹謗正法—仏法の悪口を言うこと。以上要するに、我々が阿弥陀如来の衆生済度の太慈悲心を信じて、至心に阿弥陀仏を念ずれば、必ずや西方極楽浄土に往生することができると説いているのであります。このことは、第十八願は勿論のこと、四十八願のすべてが、念仏往生の極意を説いていると言えるのであります。

かように、浄土系の宗旨では、広く念仏往生、即ち阿弥陀仏を深く信仰して念仏すれば、等しく極楽に往生できると説いているのです。

しかも、阿弥陀仏は亡き人のみ霊の到来を極楽浄土で待つておられるだけでは

なく、ついには無限の時間と空間とをものともせず、態々観音・勢至の二菩薩を伴って、この世にお迎えに来てくださるのであります。これ即ち来迎の阿弥陀如来であり、脇侍の観音・勢至とともに来迎の阿弥陀三尊といえます。

このような阿弥陀如来の大慈悲のはたらきが周知徹底され、阿弥陀如来は亡き人のみ霊の回向や供養の本尊として、今日まで広く信仰されて参りました。ところで、阿弥陀如来は三回忌の教主であり、守り本尊であります。この三回忌は昔から大祥忌といわれ、殊に大事な法事とされて参りました。

かくて、亡き人のみ霊は阿弥陀如来に迎え入れられて、忽ち極楽浄土に往生し成仏すると信じられてきたのであります。

なお、密教においては、金剛界・胎藏界の両界曼荼羅ともに、阿弥陀如来は中尊（本尊）の大日如来の西方に描かれており、西方浄土の仏とされています。

（阿弥陀如来の像容や手印についての説明を省略いたしました。皆さまには阿弥陀如来のお姿は夙に馴染み深いと存じますので、この機会に改めてよくよく拝観してみてください。）



四萬六千日燈明会 〜みあかり観音〜



四萬六千日とは、観音様のご縁日で、この日にお参りすると、四萬六千日参詣したのに相当する功德を生ずると言われています。須磨寺では、本堂において初盆精霊供養の法要を執り行い、引き続き境内にろうそくで形作られた巨大な観音様のお顔、みあかり観音の前で読経し、皆様方の所願成就・萬霊供養をご祈念申し上げます。

※新型コロナウイルスの影響により、余興の太鼓の奉納演奏は、中止とさせていただきます。また、本堂内の参拝はできませんので、ご了承ください。

- 一、日 時 八月九日（月） 午後六時より
- 一、会 場 須磨寺本堂前
- 一、ご供養・ご祈禱料
- | | | |
|------|----|------|
| ろうそく | 一本 | 千円也 |
| 祈禱札 | 一体 | 三千円也 |
| 経木供養 | 一霊 | 三千円也 |

◎須磨寺本堂前寺務所にてお申し込み下さい。

夏・秋の行事案内

◆ 八月

- 九日（月） 四萬六千日燈明会 みあかり観音 〈午後六時〉 須磨寺 本堂
- 十一日（水） 十五（日） 孟蘭盆会
- 十五日（日） 盆大施餓鬼法要 〈午前十時〉 本坊客殿
- ※僧侶のみの法要午後から塔婆をお渡しします。
- 十七日（火） 青葉殿孟蘭盆会法要 〈午前九時・正午・午後二時〉 青葉殿
- 十九日（木） 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 櫻寿院本堂
- 二十日（金） 盆大施餓鬼法要 〈午後二時〉 蓮生院本堂
- 二十日（金） 二十一日（土） 盆大師（ご縁日）

◆ 九月

- 十九日（日） 宵にはじまりチャンドラにつどう〜インドの音色と舞 〈午後六時〉 本堂前
- 二十日（月） 二十六（日） 彼岸会 特別護摩祈禱 〈午前十時・午後二時〉 護摩堂
- 二十日（月） 二十一日（火） 彼岸大師（ご縁日）

◆ 十月

- 十日（日） ユニバーサルファッションショー
- 十六日（土） 絵本テラピー 〈午後一時半〜午後四時〉 客殿・青葉殿
- 二十日（水） 二十一日（木） 大師縁日

◆ 十一月

- 二十日（土） 二十一日（日） 大師縁日
- 二十三日（火） 秋の大祭 須磨の火祭り 柴燈大護摩供 〈午前十一時〉 須磨寺境内

須磨の火祭り

須磨の火祭りは屋外での柴燈大護摩供で、この一年を無事に終えた事を仏様に感謝し、火渡りによって身を清め新しい年を迎えるために晩秋に行います。火渡り修行とは火生三昧ともいわれ、柴燈護摩の終わりに火の上を渡る荒行です。浄火により災厄を祓い福を招くといわれています。特に来年厄年を迎える方は、厄難消除のために、火渡りをして身を清め、新年をお迎え下さい。

火渡りの方は当日お札、行者手ぬぐいをお渡しします。

記

一、日時 十一月二十三日（火曜日）

午前十一時開白

一、会場 須磨寺境内 ※荒天時は、護摩堂にて

一、ご祈祷 特別祈祷札 一万円・三万円・五万円

添護摩木 千円

一、火渡り 厄年特別火渡り 五千円

一般火渡り 二千円（先着百五十名）



※火渡り修行は荒行です。多少のやけどもごさいます。
申込書の注意をよくお読みのうえお申し込み下さい。

一、お申し込み 須磨寺派各寺院にお申し込み下さい。

令和四年 厄年表

平成 十五年生（女性）	厄年	平成 十年生（男性）	小厄
平成 三 年生（女性）	前厄	昭和 六十年生（男性）	前厄
平成 二 年生（女性）	本厄	昭和五十六年生（男性）	本厄
平成 元 年生（女性）	後厄	昭和五十五年生（男性）	後厄
昭和六十一年生（女性）	厄年	昭和五十七年生（男性）	厄年
昭和三十一年生（女性）	厄年		

山本周五郎文学碑

作家、山本周五郎先生処女作「須磨寺付近」の文学碑が正覚院の境内（仁王門向い側）に建立されています。この文学碑は、正覚院先代住職故三浦真厳和尚が昭和五十九年、弘法大師御入定千五百年御遠忌の記念事業の一つとして「山本周五郎ゆかりの地に文学碑を」と働きかけ実現しました。又、文学碑に使った石は山本周五郎の代表作「樅ノ木は残った」の舞台、仙台で採れた高さ二・五メートルの泥かぶりという石に彫刻家、速水史朗氏が「須磨寺付近」の一節と山本周五郎の自筆を模写した句字が刻まれています。

「貧困と病氣と絶望に沈んでいる人たちのために
幸ひと安息の恵まれるように。 周五郎」

山本周五郎が晩年書かれた直筆。

「須磨は秋であった。……」

ここが須磨寺だと康子が云った。池の水には白鳥が群を作って遊んでいた。……雨がその上に静かに濺いでいた。……

池を廻って、高い石段を登ると 寺があった。……

「あなた生きている目的がわかりますか。」

「目的ですか。」

「生活の目的ではなく、生きている目的よ」

山本周五郎処女作「須磨寺付近」より。



「須磨寺付近」は、山本周五郎の全文学のなかで重要な作品であります。これが文壇に登場した第一作であり、山本周五郎の筆名もこれにはじまるが、作品そのものにおいて作家としての資質、初心が明確にあらわれ、その文学の原核がすでに顕在している。山本周五郎は大正十二年、関東大震災の直後に東京を離れ、須磨離宮前町に住み、その間の生活周辺を描いた短編「須磨寺付近」を書き上げ、大正十五年四月号の「文芸春秋」に発表、本格的な作家生活に入っていた。

最後になりましたが、生前、三浦真厳和尚は「山本周五郎文学の原点が、「須磨寺付近」であったという事は、須磨寺関係者一同にとって、大変な驚きであると共に、大いなる喜びでもあります。」と語っていました。

お寺で学ぶ周活知恵袋

真言宗須磨寺派昭和寺 住職 中山 戒仁

相続財産と 祭祀財産のお話

◆『相続』と『相続財産』『祭祀財産』
『相続』とは、いわゆる被相続人の有していた債権債務等をそのまま相続人に引き継がせることです（一定の例外はありますが）。

では、『相続財産』というと現金・不動産・有価証券と言ったような資産を思い浮かべるかと思いますが、借金等の債務も相続財産に含まれますし、佛壇佛具・お墓墓地等の「祭祀財産」も含まれます。ひと言に『相続』と言っても制度や規定等から「相続財産」と「祭祀財産」は異なる取り扱いがされます。この異なる取り扱いに注目しながら見ていきたいと思います。

◆日本の相続の歩み

日本の『相続』歩みを振り返ると、「家督相続」という文化が根強く守られてきたことです。明治の頃には旧民法による遺産相続の方法として、被相続人である戸主が亡くなった場合は必ず長男がひとりりで全ての遺産を継承・相続するのが原則とされてきました。しかし、終戦後はフランスの民法等の影響を受けた日本独自の家制度を改めた改正民法が施行されることとなりました。この大きな変革から、今日の『相続』のみならず、日常生活や個人の価値観等において大きな影響をうけていることは間違いないでしょう。

昔から堅持されてきた日本独特の慣習と異なるフランス等の大陸系の法律・慣習が導入されたことで大きな変化と摩擦が生じたことは知っておく必要があると思います。

◆祭祀財産の承継の規定

では、簡単に『相続』に関する説明をさせて頂いたところで、『祭祀財産』の承継についてスポットを当てて見ていきたいと思います。『相続』と「祭祀承継」に関する民法の条文を見ますと

民法897条（祭祀に関する権利の承継）

1 系譜、祭具及び墳墓の所有権は、前条（896条）の規定にかかわらず、慣習に従って祖先の祭祀を主宰すべき者が承継する。ただし、被相続人の指定に従って祖先の祭祀を主宰すべき者があるときは、その者が承継する。

2 前項本文の場合において慣習が明らかでないときは、同項の権利を承継すべき者は、家庭裁判所が定める。

民法896条（相続の一般的効力）

相続人は、相続開始の時から、被相続人の財産に属した一切の権利義務を承継する。但し、被相続人の一身に専属したものは、この限りでない。

第898条（共同相続の効力）

相続人が数人あるときは、相続財産は、その共有に属する。

第899条

各共同相続人は、その相続分に応じて被

相続人の権利義務を承継する。

と規定されています。「相続財産」は基本的にすべての相続人が相続するのに対して、「祭祀財産」については特定の相続人（または、相続人に法定されているわけではないので、相続人以外の人）が基本的に単独で承継することになりその人を祭祀主宰者といえます。この規定は「見すると矛盾するかのよう」に見えますが、相続財産である現金や不動産等は相続人で分割して相続することは可能ですが、佛壇・墓所墓石・位牌等の祭祀具は葬儀法等の祭祀を主宰するためには不可欠なものであり、分割して承継させると色々不都合を生じることから、単独で承継する旨が規定されているのです。

◆法律・慣習と心情の壁

おおまかな概要は知って頂けたと思いますので、何が問題なのか考えたいと思います。従前の家督相続では、長兄が家業・家・両親等の面倒・祭祀等を当然に引き受けることを基に財産を相続することになっていました。そして、その他の兄弟姉妹へは両親が就学や結婚等に際して相応の支援（財産の分与）をされていたように聞きます。当主により一定の配慮がなされており明らかな不平等は解消されています。

しかし、戦後からは「財産相続は平等に、祭祀財産はおひとりに」、すなわち「資産（財産）は均等、負担は祭祀主宰者（個人）」

という構図になっています。これに不公平感や違和感を感じる人も多いと思います。

何を申し上げたいかというと、『相続』について日本人の根底には家督相続文化が根強く残っているにもかかわらず、「平等」「個の重視」を旨とした海外から輸入された法律で規律されることに大きな弊害や摩擦が生じていることです。

◆祭祀財産の承継のカタチ

少し考えて下さい。今の自分があるのは両親・両親の祖父母を始め、ご先祖様が懸命に家を護つて来られたからです。本来であれば本家・分家を問わず先祖代々の位牌を奉安してお祀りするべきだと思います。それを祭祀主宰者（長兄や喪主等）が家族を代表してお祀りして頂いているのですから、日頃から感謝の気持ちを忘れず、盆・彼岸・正月・祥月命日等には御供を送ってご先祖様を偲び、お祀りして頂いている方々へ感謝を伝えることが大切なのではないでしょうか。

現行の法制度の不備を補完するのは、皆さんひとりひとりでであり、少しの心遣いと感謝する気持ちを持つことに尽きるのではないのでしょうか。

法律は一道具に過ぎませんし、不完全なものだと思っています。この道具は倅せを導く、人を倅せにする宝（法を宝）に変えられるのも皆さん自身であり、大切な人を想うココロだと私は信じています。

須磨寺の歴史

〈二十七〉

今年六月十日、東京スポーツ一面に「三つ子人面魚」という記事が掲載されました。須磨寺の平敦盛首洗いの池に、人面魚が三匹いるという記事なのですが、この記事を執筆した記者は、三十一年前に山形県鶴岡市・善宝寺の人面魚の一大ブームを巻き起こすきっかけとなった記事を執筆した方だったのです。

今回の記事で再び人面魚ブームが起き、須磨寺に人々が殺到するかは分かりませんが、須磨寺には人々を引き付ける要素が沢山あります。今回は「当山歴代」の記事から、須磨寺でブームを巻き起こし、人々が殺到した記事を見ていきます。

「当山歴代」は代々の住職が書き継いできた寺の年代記で、五百八十年余りの記録ですが、その中には須磨寺で行われた興行の記録も記されています。古いものでは室町時代の応安四年（一三七一）に須磨寺で親世大夫の勅進猿樂が行われたという記録が残されていますが、詳細に関しては記載されていません。時代が遡って戦国期の大永六年（一五二六）の記事を見てみると、本尊の御開帳並びに敦盛の御影並びに笛を見せ、そのため「貴賤群衆して耳目を驚かす」という記載があります。

江戸時代になると「当山歴代」の記述は文章・体裁も整い、詳細な記録になります。江戸時代の記事を見て須磨寺に人々が殺到したという記事があるのは、開山上人・敦盛の御遠忌や本尊親世菩薩に因んだ三十三年ごとの御開帳が行われた時です。特に享保十八年（一七三三）の敦盛五五〇回忌の御開帳は大規模に行われ、前年の八月から準備され、大阪・尼崎・明石まで御開帳を知らせる板札を立て、本番の六〇日間は兵庫の茶屋が立ち、大阪の芝居が興行されるなど、前代未聞の賑わいであったと記されています。

この様に江戸時代の須磨寺は名所寺院としてその名が知られ、繁栄を謳歌していたのです。

蓮生院 七月から九月までの行事予定

写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできますので、写経・瞑想を経験したことのない人でも是非ご参加いただき、疲れた心を癒しにお越しください。

（写経のみ、瞑想のみの参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください）

日 時 七月二十五日（日）

九月四日（土）・十二日（日）

十月二日（土）・二十四日（日）

写経会十四時～十五時半 瞑想会十六時～十七時半

（受付は三十分前から）

場 所 蓮生院本堂

参加費 写経五百円・瞑想会千円

事前申し込み制です。

数日前から発熱、咳、下痢、頭痛、息苦しさなどありましたら、参加はご遠慮下さい。

マスク着用をお願いします。

当日お昼までに蓮生院の寺務所にお申込みいただくかお電話でお申し込みください。

諸事情により取りやめになることがあります。

蓮生院電話番号 〇七八―七三一―二三二一

令和3年 年忌一覧

一周忌	令和二年亡	二十五回忌	平成九年亡
三回忌	平成三十一年亡	二十七回忌	平成七年亡
七回忌	平成二十七年亡	三十三回忌	昭和六十四年亡
十三回忌	平成二十一年亡	三十七回忌	昭和六十年亡
十七回忌	平成十七年亡	五十回忌	昭和四十七年亡
二十三回忌	平成十一年亡	百回忌	大正十一年亡

仙師逍遙

須磨寺工房の二階廊下の壁に、郁子^{むすこ}の実と野葡萄の絵がかかっています。



野草大好き私の私にこの絵を描いてくださったのはもう十五年以前、神戸港の玄関口に大きな平和と愛の女神（ミューズ）像を建設する計画があったときに、友人から紹介していただき女神像の原案画をお願いした女流画家さん。この計画は残念ながら実現はしていませんが、それ以来の親しいお付き合いはいまも続いています。

いつの頃だったか、打ち合わせのために工房に尋ねてこられたことがあって、丁度その時、私が制作していた屋久杉の「はな観音さま」に目を止められ、「描かせてもらってよろしいですか」と一言断られた上で、ご持参の鉛筆を持たれました。

描き上がるまで時間にして、一時間とちよつと。表現の違いはあるにし

ろ、実に驚くばかりの出来栄で、その後幾度かお互いの個展や教室の作品展に、友人を伴って訪ね合つて、談笑にときを忘れた記憶があります。

多分そのいずれかの時、

「これはごく親しい友人が、最近になつて話してくれたことです」

という前置きから、この不思議なお話は始まりました。

二十八年前その若い夫婦は、初めて授かった生後間もない男の子が、肺に重度の障害を持つていて、当時の医学では治療法がなく、余命一年と診断されていました。入院していた大病院の病室で、縛られるがごとく機械に繋がれた幼い我が子を見るに忍びなくて、

「家に連れて帰ろう」

と父親は決心し、担当の医師も同意されたそうです。

武庫川の堤を辿る家路。父は抱いた子のあまりの軽さに短かすぎる生涯を思い、母はあふれる涙を拭うことさえ出来ず、ただ黙々と並んで歩いていった。その時ふと、二人の横を中学の制服を着た男の子がすれ違つていった。

中学教師である父は、無意識に「こんな時間にこんなところを、どこの生徒だろう」と振り返ると、もうどこにもいない。

隠れようも無い川の堤の一本道。その男の子の姿はまるで霧のように消え失せていた。夢を見ているような、長い一瞬。

そして、雲間から指す一条の光に射られたように、不意に父は気がついた。いま、自分が自分の腕で抱いているこの子が、成長して中学生の姿で会いにきたのだ、と。

「おい、この子は死なない。きっと助かる」

何事かと目を見張る妻に告げる言葉は、力強く確信に満ちていた。

その通り、その子は回復し、元気に成長した。

このお話をされたのは、文中の男の子とも面識のある方で、現在も親しくおつきあいがあるとか。

その時その場に同席した方々は、等しくその不思議なお話にあたたかな感動を覚えました。

さて、

あなたは信じますか。

奇跡は言葉ほど軽くはなくて、この世には起こり難く、目にするこの叶わないもの。けれどその有り難い（起こり難い）という意味の言葉を、私たちは「ありがとう」の言葉で、日々挨拶

撈のようにふつうに使っています。

今という時間が過去の積み重ねなら、過去は今の中に生きている。

そうであるなら、未来もまた、今という時間の中に息づいている。

中学生になった子が、幼い頃両親から聞かされたであろう、両親が自分の命を何事にも変えがたく抱いて歩いた川の堤の道を歩くことがあったとしたら、きつと溢れる思いを持つて、その道に一步一步を刻むはず。

親子の互いに思い合う心は、きつと時間の壁さえもすり抜ける。そんなからを持つている。

と わたしは思います。

あなたは・・・

須磨寺大仙師 山高龍雲



花の雨

生きてありがたうに

つつまれて

龍雲

M.Y.S Kobe 主催

M.Y.S. Kobe

2021
10/10
日

ユニバーサル ファッションDAY

会場 大本山須磨寺

神戸市須磨区須磨寺町4丁目6-8

日時 2021年10月10日(日)

14:30~17:30

※Youtube 映像配信あり

ユニバーサル
ファッションDAY
への想い

～障がいのあるなしに関わらず、
子どもも大人もみんなで作り上げる
ファッションDAYに参加し交流
を深め、お互いに思い合う笑顔
の地域社会の輪を広げていきま
しょう!～



M.Y.S Kobe(メイクユースマイル神戸)

M.Y.S Kobe(メイクユースマイル神戸)は「あなたを素敵な笑顔にしよう神戸から!」の想いで神戸で活動している市民グループです。2016年10月「第1回ユニバーサルファッションショー in 板宿本通商店街」、2018年10月「第2回ファッションショー on ビーチマット」を須磨海岸で開催しました。その他様々な笑顔企画を開催しています。

お問い合わせ

MAIL m.y.s.kobe@gmail.com

TEL 080-1408-6249 中村

HP <http://mys-kobe.net/>

FB <http://www.facebook.com/mys.kobe>



YouTube 配信はこちら



●プログラム●

- 1 高校生が創る、子どもが着る～未来につなぐ
「子どもユニバーサルファッションショー」
出演/子ども車いすモデル、子どもモデル 15名
- 2 「子ども車いすモデルデザイン画コンテスト」表彰式
グランプリ/最優秀賞、各賞作品数点
- 3 大人ユニバーサルファッションショー
出演/M.Y.S Kobe 認定モデル他
●特別ゲスト●
車いすファッションモデル「日置有紀さん」
- 4 子どもダンスチームによるパフォーマンス
出演/演劇団体:和の木 with なごみのキッズ
兵庫県バラストリートダンス連盟



主催:M.Y.S Kobe ユニバーサルファッションDAY 実行委員会

後援:兵庫県教育委員会

協力:大本山須磨寺・兵庫県立兵庫工業高等学校・兵庫県高等学校家庭クラブ連盟・NPO 法人神戸デザイン協会・nomadocco

協賛:公益財団法人 太陽生命厚生財団・神戸心身障害者を持つ兄弟姉妹の会



国際会館に於いて行なわれていますが、昨年は新型コロナウイルスの蔓延により中止となり、本年も緊急事態宣言下となったために、会長寺院である当山須磨寺にて厳修されました。午前10時より、八角堂において「新型コロナウイルス物故者の慰霊法要」、護摩堂において「新型コロナウイルス早期終息祈願護摩祈禱」が厳修されました。参拝者の方は、感染対策として、お互いの距離を保ちながら、八角堂では、お大師様の誕生仏に灌沐(甘茶かけ)を行い、続いて護摩堂に所願成就の護摩木をもって参拝し、僧侶からお加持を受けられました。法要後には、八角堂で式典が執り行われ、来賓のご挨拶、会長のご挨拶、ご詠歌舞踊の奉納などが行われました。晴天にも恵まれ、約150名の方と共に、お大師様への報恩謝徳の祈りを捧げました。



六月十五日は弘法大師空海様のお誕生日です。神戸では、神戸真言宗連合会(神戸市の真言宗寺院七十一ヶ寺)が主催となつて、毎年六月十五日にお大師様の生誕をお祝いする「いろはまつり」が三宮の

いろはまつり